

1 1. アクションリサーチによる片浜小学校利活用の実現

(応募チーム：カタハマ・エージェント（牧之原市）)

(評価)

これは牧之原市片浜小学校の廃校に伴う施設の利活用の合意のための新しい仕組み作りに挑戦したアイデアで、「意見回収⇒運営計画⇒設計提案」のサイクルを従来は一回で済ませていたものに対して、アクションリサーチという手法を取り入れて「意見回収⇒運営計画⇒設計提案」のサイクルを模型を示しながら何度も繰り返して関係者の合意を目指すものである。アクションリサーチという手法を廃校の利活用に適用してみようという試みは新しく、このアイデアづくりに中心的な役割を果たした建築学の学生の研究テーマとしては評価できるし、建築物改修利用の合意形成の手法として磨いていく意義がある。また地域の合意形成の観点からも、全体から個別のテーマへの円滑な移行、市民や企業などの立場の違う人の意見の集約に、アクションリサーチの手法が適用され磨かれていくことを期待したい。なお、片浜小学校廃校施設の利活用の用途は以下の三点が挙げられている点に留意したい。a. 地域施設の一元化
b. 地域の防災機能の向上 c. 卒業生の思い出継承

(アドバイス)

(1) 小学校廃校施設の市民の潜在利用者のエクスペリエンス取り込みの強化と市民ファシリテーションの手法の多様化

関係者の合意の場として設けた「カタハマ・エージェント」では、模型を使ったり実際の校舎で市民の潜在利用者との協議をされていますが、最終的には小学校廃校施設の市民の潜在利用者の満足度が上がって成功といえますから、これが十分だったどうかの検証をされてはどうでしょうか。牧之原市には優れた市民ファシリテータが数多くおいでですので、彼らの意見を聞いてみることも一案です。

さらにこのやり方を敷衍して、ユーザーと利用場面（平時と災害時）を分類してペルソナを作り、利用条件、利用頻度、利用勝手などを詰めてみてはいかがでしょうか。それを踏まえて市民との協議と模型に反映させるのです。なお、牧之原市は市民によるファシリテーションで先駆的ですが、今回の経験を踏まえてアクションリサーチの手法の多様化の一つとして視野にいれるのも有益かと思います。

(2) 片浜小学校廃校施設の利活用の用途のブレ防止

アクションリサーチの議論の過程で、片浜小学校廃校施設の利活用の用途にブレが生じると、模型を作っても繰り返しても焦点が定まらない恐れがあります。したがって、a. 地域施設の一元化 b. 地域の防災機能の向上 c. 卒業生の思い出継承のうちの重点はどこか、それぞれの用途を満たす最低条件は何かについて、アクションリサーチの前に市民を含めた明確な合意（決定メカニズムの合意も含みます）を前提にする必要があります。もしこの合意があるのでしたら、市民との議論や「カタハマ・エージェント」での議論では、常にこの原点に戻って確認していく必要があります。

(3) 片浜小学校廃校施設の改修設計案の意思決定のガバナンス、事業採算性

改修設計案の意思決定は最終的には行政が担うと思われるが、「カタハマ・エージェント」の位置づけを市民に明確にしておくことが望ましいではないでしょうか。また、以上のような形で施設の改修設計案が見えてきたとしても、廃校施設の運用は市役所ではなく、第三者機関ないし民間に委託するのであれば、

事業採算性を念頭に置いたシビアな検討が不可欠です。この検討結果も市民の潜在利用者に利用料金とともにしっかり返していく手順が必要ではないでしょうか。